

ケヤキフシアブラムシ

ケヤキの葉に長さ約6~7mmのコブができる。コブは春は緑色だが、夏以降は茶色になる。春はコブの中にアブラムシがいる。森林や庭などでしばしば多発する。



1. 虫えい，高さ最大7mm. 2001/8/17.

美唄市，庭のケヤキ.

【学名】 *Paracolopha morrisoni*

【分類】 カメムシ目 (Hemiptera) , アブラムシ科 (Aphididae)

【分布】 北海道，本州，九州；北米.

【生態】

卵越冬。早春に孵化し，新葉の裏側につき吸汁加害する。その刺戟で葉はへこみ葉表に虫えい（コブ）ができる。虫えい中で繁殖し，夏に翅（はね）のある雌成虫が脱出しササに移住する。夏から秋はササの根で繁殖する。

10月にケヤキに戻り，ごく小さな成虫を産み付ける。雌成虫は体内に卵を持ったまま樹皮の隙間に張り付いて死亡するといわれている。

【被害と防除】

しばしば多発するが，木が枯れたり成長が低下した記録はない。このため，防除の必要はないと考えられる。もっとも，道内でケヤキ造林が行われるようになったのは最近のことであり，被害実態はよくわかっていない。今後，調査が必要であろう。

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ケヤキフシアブラムシ abura/keyakifu/
kaisetu.htm

「文章」 原秀穂，北海道立林業試験場，2001/8/16.

kobu.JPG

